



気軽に散歩できる森林公園に

愛鷹運動公園内ヒノキ人工林が生まれ変わる

愛鷹運動公園内ヒノキ人工林の整備事業が、NPO法人「環境整備・森と竹で健康クラブ」(貞清恒夫代表)の会員らによって、10年間をかけて実施された。19日には現地で、頼重秀一市長らに整備事業についての報告を行った。

環境整備・森と竹で健康クラブ

10年かけて荒れた森を整備

愛鷹運動公園内には北側に10ha余りのヒノキ人工林があるが、10年前には手入

れもほとんどされておらず、荒れた森林

だつた。樹齢60年を越えたヒノキは、手入れが行き届かない

ために状態が悪く、大規模な間伐が必要で、灌木や笹類など

が繁茂して見通しがきかず、歩くのも危険な状態だった。

と立ち上がったのが、
「環境整備・森と竹で健康クラブ」の会員達。当時の栗原裕康市長の了解を得て工林整備事業を開始

した。同会は、沼津や周辺の荒れた森林、放置竹林の整備活動を行っており、社会貢献とともに自らの健康維持をしようと、明電舎の退職者達が集まつて2005年に設立。当時6人だった会員は現在25人に増え、平均年齢73歳。週に2回、愛鷹山麓などで、里山を守るために活動を続いている。

遊歩道周辺の枯れ木除去に始まり、灌木類の除去、ヒノキに巻き付いたツルの除去などの段階を経た後に間伐作業。途中までは正確に数えていなかつたが、17年からの3年間だけ

でも5000本を切ったという。

また、間伐材を活用して傷んだ遊歩道の階段を補修し、散策路の案内板など製作。テーブルやベンチを作り見晴らしの良い場所に置いた。

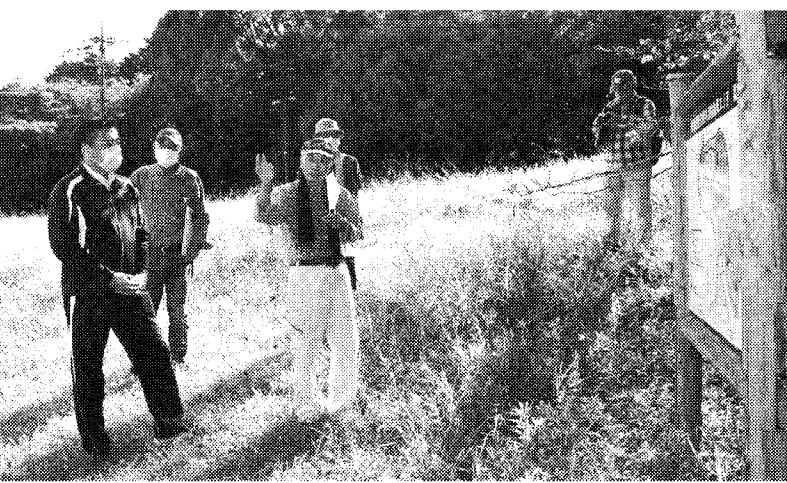
現在のヒノキ人工林には紅葉が美しいといふ。11年には、台風15号によつて150本以上の木が倒れ、その処理に苦労したといふ。倒木を取り除いた跡地は、地ごしらえして、四季を通じて花が楽しめる様な木を植え、「木の花咲くやゾーン」と名付けた。ロウバ

イ、カワヅザクラ、シャクナゲ、サザンカなど、1年を通して、いつでも何がしかの花が楽しめ、秋には紅葉が美しいといふ。

沼津朝日新聞社
〒410-0888 沼津市末広町34
TEL 962-4840 FAX 962-4590
URL numaasa.com
1ヵ月 730円・1部 40円

山王さん
結婚式・地鎮祭・諸祈願
日枝神社

平町7-24 沼津警察署前
☎ 962-1575



間伐材を使った案内板の前で頼重市長(左)に説明する貞清代表(中央)



整備されたヒノキ人工林内を歩きながら、これまでの活動について説明が行われた

林は、間伐によって陽の光が差し込むようになつた。整備された遊歩道は歩きやすく、鳥の声が聞こえ、眺めの良い場所からは沼津を一望することができる。

同公園内には宿泊施設「INN THE PARK（インザパーク）」があり、首都圏などから多くの人が訪れるが、その宿泊客の散策ルートとして活用されることもできる。

貞清代表は市長に「沼津市の森林公園として位置付けてほしい」と願い、また、同会が活動継続できることもできる。

頼重市長は「市民が気軽に訪れる環境に対するため、とライマークとして取り組まれたことに感動した。

林は、間伐によって陽の光が差し込むようになつた。整備された遊歩道は歩きやすく、鳥の声が聞こえ、眺めの良い場所からは沼津を一望することができる。

同公園内には宿泊施設「INN THE PARK（インザパーク）」があり、首都圏などから多くの人が訪れるが、その宿泊客の散策ルートとして活用されることもできる。

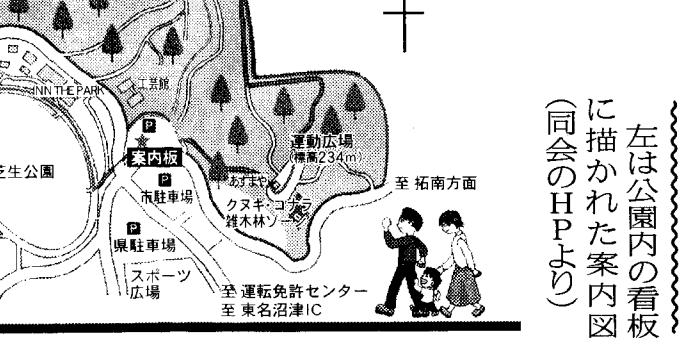
解説 里山の森林を整備することには大きな意義がある。森林は、二酸化炭素を吸収して酸素を提供してくれるほか、豪雨の際にも水を蓄えて、洪水や土砂の流出を防ぐ。

会員の平均年齢は上がつても「参加意にもなり得るのでは」と話した。

愛鷹運動公園のヒノキ人工林は、10年間をかけて整備の目標を達成。今年80歳を迎えた貞清会長は「報告を終え、ほつとしている」と話した。

80歳を超えた会員は「週に2回、この会で活動しているおかげで元気でいる」と話す。起伏のある山道の整備作業の時はチエーンソーなどの道具を持つて歩き、季節を問わず、こうした活動を長く続けてきた。

80歳を超えた会員は「週に2回、この会で活動しているおかげで元気でいる」と話す。起伏のある山道の整備作業の時はチエーンソーなどの道具を持つて歩き、季節を問わず、こうした活動を長く続けてきた。



左は公園内の看板に描かれた案内図
(同会のHPより)

安全技能研修会など様々な活動を行つて